

用語解説

	用語	解説
ア	アーカイブ	重要記録を保存・活用し、未来に伝達することをいう。日本では一般的に書庫や保存記録と訳されることが多いが、元来は公記録保管所、または公文書の保存所、履歴などを意味し、記録を保存しておく場所のことである。
	アーティストインレジデンス	アーティストが一定期間、居住地以外の土地に滞在し、作品の制作やリサーチ活動を行うこと。または、その活動を支援する制度。アーティストは異なる文化や生活からの刺激を受けるとともに、滞在する地域においては魅力の再発見や文化振興などが期待されている。
	アートマネジメント	芸術・文化活動と社会をつなぐための業務や方法論のこと。また、アートに関わるマネジメント業務全般を指す用語としても用いられる。具体的には、企画制作、経理や組織管理などの業務、広報活動やマーケティングなどの業務が含まれる。
	ICT（情報通信技術）	「Information and Communication Technology（情報通信技術）」の略称であり、通信技術を活用したコミュニケーションを指す。情報処理だけではなく、インターネットのような通信技術を利用した産業やサービスなどの総称として用いられる。
	アウトリーチ	芸術文化分野におけるアウトリーチとは、芸術家や芸術文化施設が、普段、芸術文化に触れる機会の少ない市民に対して、その生活の場に出向き、働きかけを行うことである。「芸術普及活動」「教育普及活動」とも言われる。
	アクセシビリティ公演	視聴覚等に障害を持つ方が舞台芸術を鑑賞するにあたり、必要な支援が用意されている舞台公演のこと。視覚障害者に対しては、開演前の舞台説明・上演中の音声ガイドなど、聴覚障害者に対しては、台本の貸出・字幕表示・手話通訳などが考えられる。
	インバウンド	「外から中へ入る」という意味の形容詞であり、訪日外国人旅行者または訪日外国人旅行者を指す。近年、アジア地域の経済発展等により急激に旅行客数が増加し大きな経済効果を示していたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、激減した状況にある。
	AI（人工知能）	AI（artificial intelligence：人工知能）とは、言語の理解や問題解決などの知的行動を人間に代わってコンピューターに行わせる技術であり、技術の進展により、人が行っていた業務を人工知能が代替する可能性やその影響などが議論されている。
	SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）	インターネット上で社会的ネットワークを構築可能にするサービスのこと。狭義にはコミュニティ型の会員制サービスあるいはそういったサービスを提供するウェブサイトを指し、Facebook、Twitter、LINE、Instagramなどが有名である。
	SDGs（エス・ディー・エー・ジーズ）	「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称であり、2015年に「国連持続可能な開発サミット」で決められた国際社会共通の目標である。貧困の撲滅や平等の実現、環境の保全など17の目標と、169のターゲットで構成される。
カ	観光地域づくり法人（DMO）	「Destination Management/Marketing Organization」の略語であり、観光地域づくりの司令塔として、地域の多様な関係者を巻き込みつつ、科学的アプローチを取り入れた観光地域づくりを行う舵取り役となる法人のことを言う。

用語解説

	用語	解説
	クラウドファンディング	群衆 (crowd) と資金調達 (funding) を組み合わせた造語であり、不特定多数の人が、通常インターネット経由で、他の人々や組織に財源の提供や協力などを行うことを意味している。日本においても急激に導入が進みつつある。
サ	シビックプライド	都市に対する市民の誇りを指し、愛着だけでなく、都市の構成員として自分自身が関わって地域を良くしていこうとする、当事者意識に基づく自負心のことを言う。なお、本ビジョンにおいては「都市」をより広く捉え、「地域 (シビック) プライド」と表記している。
	社会包摂	ソーシャル・インクルージョン (social inclusion) の訳語。社会的に弱い立場に置かれている人たちを排除するのではなく、包摂する社会を築いていこうとする考え方のこと。また、違いのある人たちを、違いを尊重したまま受け入れる社会を目指そうという取り組みでもある。
	生活文化	文化芸術基本法では「茶道、華道、書道、食文化その他の生活に係る文化をいう」と定義されており、例示された分野のほかにも、煎茶・香道・着物 (和装・着付け等を含む)・礼法・そろばん (珠算)・素読・俳句 (俳諧)・川柳・盆栽等が考えられる。
ナ	ネーミングライツ	公共施設等に企業の社名等を名称として付与する権利で「命名権」とも呼ばれる。施設所有者には命名権販売によって財源を確保できるメリットがあり、命名権を購入する企業にとっては宣伝効果が見込まれる。
ハ	プラットフォーム	周辺よりも高くなった平らな場所をさす英語であるが、施策における基盤の意味でも使われる。文化芸術推進基本計画 (平成 30 年) においては、「関係機関等による対等な立場でのゆるやかな連携・協働を可能にする枠組みとして多様な連携組織等の地域の連携・協働を推進するプラットフォームの形成」が目指されている。
マ	ポップカルチャー	一般大衆に広く愛好される大衆文化のことであり、一般的にアカデミック分野に属するクラシックな文学や美術、音楽などの文化を表すハイカルチャーと対立する概念である。映画、テレビ、歌謡曲、ポピュラー音楽、大衆小説、大衆演劇などが該当する。
ラ	ライトノベル	娯楽小説のジャンルの一つであり、青少年を主な読者層として想定し、マンガ的あるいはアニメ的なイラストが添付されていることが多い。人気作品についてはアニメ化や実写化がなされるとともに、作品の舞台となった土地を「聖地巡礼」と称して回るファンもよく見られる。
ワ	ワークライフバランス	「仕事と生活の調和」とも訳される。一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる状態のこと。
	ワーケーション	「ワーク」(労働) と「バケーション」(休暇) を組み合わせた造語であり、観光地やリゾート地などでテレワーク (リモートワーク) を活用しながら、働きながら休暇をとる過ごし方。コロナ禍のなか、新しい生活様式の一つとして注目されている。